

一般質問

6月定例会



内藤 眞一 議員

Q人口減少対策を問う

所信表明において人口減少対策を重点に取り組むとの表明であった。これは、昨年施行された『地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律』に基づいた、特定地域づくり事業協同組合制度の目的と重なる部分が多い。
人口減少対策など、新町長として印象的な課をつくり、意気込みを見せて欲しいがいかがか。

A公約に通じる

町長塚原隆昭

特定地域づくり事業協同組合は、私の公約である定住を進めるまちづくりの中で、後継者、担い手を確保するために必要な制度である。今月中に法人として設立予定と聞いている。

この制度を活用することで、若者がこの地域に定着し、一定規模の人口が確保できれば、集落のコミュニティー活動、農地

の保全、伝統行事の保存等集落維持に繋がっていく。正に、重点的に取り組む公約に通じている。
今回、議案を提出している組織改革にあたっては、若い職員からのユニークな提案もあつたが、何を担っている課か、住民が想像しやすく親しみやすい課名とした。



農業活性化センター内に設置

Q防災訓練中止への対策を

予定されていた防災訓練が、新型コロナウイルス接種と重なり中止になった。一日がかりの訓練は不可能かもしれないが、地区担当と防災担当職員が地区ごとに実施してはどうか。

また、防災危機管理室設置の考え方とコロナ禍での避難所使用のあり方について問う。

A替わるもので対応

町長塚原隆昭

自然災害や新型コロナウイルス対応など、あらゆる危機に対応するため危機管理室を設けたい。町が即判断、対応しなければならぬことが増えたこともある。防災士資格取得者が45名となり、自主的な防災活動の機運も生まれている。人員体制も強化し、災害に的確かつ迅速に対応できるようにしたい。

防災訓練は中止したが、提案もふまえ、替わるものを行いたい。詳細について検討しており、決定次第説明する。



自主防災組織の話し合い(志々地区)

一般質問

6月定例会



高橋 英次 議員

Q副町長に印象を問う

本町に赴任して2ヶ月になるが、飯南町の印象はどうか。

A豊かな自然・文化・歴史

副町長奥田弘樹

冬は雪が多い町という印象をもつて赴任した。

暮らしてみても、年齢にかかわらず元気に生き生きと活躍し、自分の町に誇りを持っている人が多いと思った。

豊かな自然があり、四季を体感できる。出雲・石見・備後が交わるエリアで、この地ならではの歴史と文化があると感じた。



Q町政への取り組み姿勢は

町長は島根県との密接した連携が重要と考え、事業推進の上でも「次期副町長は島根県からの派遣を受けたい」との説明を受けたが、どのように塚原町政に取り組むのか。

A町長の基本姿勢を重視

副町長奥田弘樹

県庁で26年勤務してきた。財政課で8年、その内3年間グループリーダーを経験しており、予算編成や行政改革に役立ちたい。

町長の基本姿勢である「対話」を重視し、各方面の意見を聞き、職員とも議論を重ね、「ネットワーク・チームワーク・フットワーク」を大切に、町長を補佐し「笑顔あふれるまちづくり」に貢献したい。

Q目指す目標は

任期中の目標として目指すところはなにか。

A町長のサポート第一に

副町長奥田弘樹

職務上の目標は、本町の総合振興計画に掲げられた事業を着実に進めることだ。

7月の組織機構改革後の組織が円滑に機能し、役場全体が最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、潤滑油として調整に当たりたい。

Q学校教育の目標は

目指すところの「飯南町の学校教育」は。

Aふるさとを想う「郷土愛」を

教育長大谷哲也

本町ではふるさと教育を強く推進しており、ふるさと飯南町を想う「郷土愛」を育んでいきたい。

今後の学校教育について、現状の課題分析、小規模学校・複式学級のメリット・デメリットを十分検証し、関係者との議論の準備を進める時期が来ていると思うが、早急な統合に向けて進めるということではない。

定住対策、教育移住で人口減少対策に取り組むなど、町長部局と一体となって教育環境を守っていききたい。